

2021 一橋大学(前期)日本史予想問題①概評

出題分析		
試験時間 120分	配点 学部により異なる	大問数 3題
分量 (昨年比較)〔減少 同程度 増加〕		難易度変化(昨年比較)〔易化 同程度 難化〕
<p>【概評】</p> <p>例年通り各大問 400 字以内、3 題の出題。昨年度の I は一部に中世を含む近世主体の問題であったが、コロナショックにより文科省から各大学へ 2 次試験の出題範囲縮小の要請が出されたこと及びこれまでの傾向から今年の I は古代から中世が出題されることが高いと予想し、作問した。全体として一橋大学らしい問題に沿うように作問し、過去問の類題もちりばめたためしっかりと対策を行ってきた受験生なら合格点(五割以上)はとりやすいセットになっていると考える。大問別にみると、I には歴史的背景を問うような問題が見受けられ、単なる単語の羅列の暗記によって辛うじて共通試験レベルをやり過ぎているような受験生には太刀打ちできないであろう。普段から歴史的事実の内容だけではなく、役割・意義・影響・背景を意識した勉強を心掛けたい。ここに日本史の面白さが隠されているのであるから。また、II では将来の一万円札の顔になる渋沢栄一に関する問題が出されている。去年の近世の旅の特質を問うような問題と同様に時事に精通したような問題も出されていることにも注意を払いたい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	中世の歴史書・一揆と惣村	<p>近世以降に過去問が偏っているためか、一橋受験生はどうしても中世に苦手意識を覚えてしまうのではないかと懸念。特に今年は傾向的にも中世が問われることがほぼ確実なので力を入れてほしい。問 1 では「愚管抄」を取り上げた。この著作は文化史の中でもオーソドックスな出題であり、過去問にも 1990 年に出题され、オープン模試でも出题された。用語集にも比較的詳細に記載されている。また、一橋日本史ではこのようなオーソドックスな文化史以外の著作の内容(民間省要)なども聞かれることも多いため、そのような著作にも必ず目を通しておくこと。特に社会経済に関連する著作は出题される傾向がある。問 2 も 2000 年に出题された過去問の類題である。一言でいうと、多角的な参加者から農民のみの参加への変化である。中世では在地領主としての国人や農民と武士の両方の性格を備えた地侍、惣村、一向宗など多角的であった。中世と近世の間に兵農分離という重要な歴史的事実があることを思い出せば書きやすくなるか。問 3 は以外に盲点かと思われる。頻出の惣村に関しては何を問われてもいように練習を積んでおくことが求められる。今回の論点は資料集に記載されているので目を通しておくことをお勧めする。</p>	標準

II	<p>明治六年の政変・渋沢栄一と松平定信</p>	<p>あまり過去問では見かけないが、大門 2 に近世が混じるという変則的な問題を作成した。今年の一橋日本史に絵が出題されたことからわかるように、最近の一橋日本史では従来の出題傾向が当たり前ではなくなっているため、これまでの傾向に完全に身を任せるのは危険なのではないかと考える。どのような出題でも慌てないように、問題形式を決めつけることは避けよう。今回は頻出である松平定信の政治(2015・2004・2000 年に出題)と大阪紡績会社について作問した。また一橋日本史では「意義」について問われることが多いため、今回は問 2 で第一国立銀行の意義について出題した。おそらく難易度は高めではあるが、国立銀行としての先駆であるという条件を念頭にすれば予想できたか。問 3 は渋沢栄一との関連を明確にしよう。問 4 は大阪紡績会社の経営の実態であり、確実に得点したい。ここで主に使われたのはリング紡績機であり、ミール紡績機は初期だけなので注意。ここで劣悪な環境で働いた女工の安価な労働によって紡績業が成り立っていたことが、後に工場法への風当たりが強くなる理由となる。</p>	標準
III	<p>傾斜生産方式と占領政策の転換・戦後日本経済</p>	<p>今年の一橋日本史では近現代が出題されなかったため、おそらく次は近現代が出題されると踏んでいる。問 1 は経済安定本部でも可。傾斜生産方式は 2017 年に出題された。この政策がインフレを加速させたことも覚えておきたい。問 2 はオーソドックスな占領政策の転換に関する問題で過去問にも出題された(2001・1983 年)。背景と内容がスラスラ言えるまで練習しておこう。非軍事化・民主化から、西側陣営の一員として日本の経済自立を促す方針に転換したことは必ず言及することが重要であり、戦後の最も大きな潮流は冷戦構造であるから常に頭に意識しておきたい。問 3 は難問として用意した。一橋日本史では毎年最低 1 問は奇問が出ている印象があるため、字数調整の訓練としての意味合いもあり出題した。この場合は占領政策の転換に大胆に字数を割くことがベストだ。頻出事項に関しては自信を持とう。</p>	標準